

施工を始める前に **準備と要チェック** 重要!!

◎下地は平滑できれいですか？



下地は乾燥材を使用し、釘の頭や針金、段差や筋など無きよう平滑にし、ゴミや木クズなどきれいに掃除します。

◎断熱材は必ず入れる!!



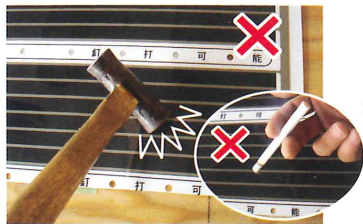
断熱材は硬質発泡50mm以上の断熱材を推奨します。
(グラスウールは使用しないで下さい。)

◎黒と銀の部分は釘打ち厳禁!



パセロシートの黒と銀部分は釘打ち厳禁。誤って打った場合、パセロシートは交換になります。

◎パセロシートはデリケート



ハンマーの落下、土足、たばこの火種等には注意して下さい。

◎コントローラ以外の制御機器使用



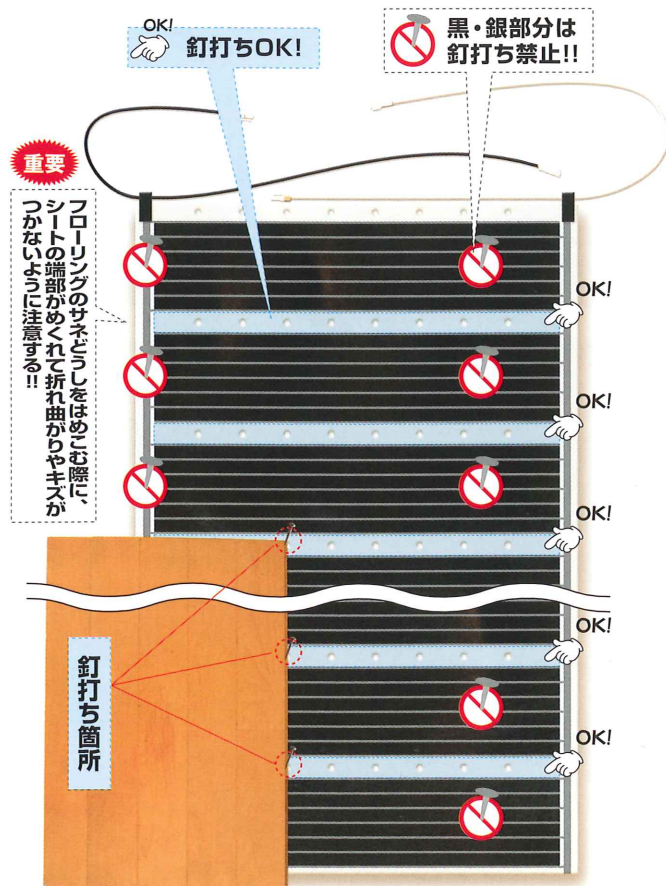
◀スイッチを使用する場合は両切タイプを選定して下さい。

ライトコントロールを使用する場合は、白熱灯用を選定して下さい。



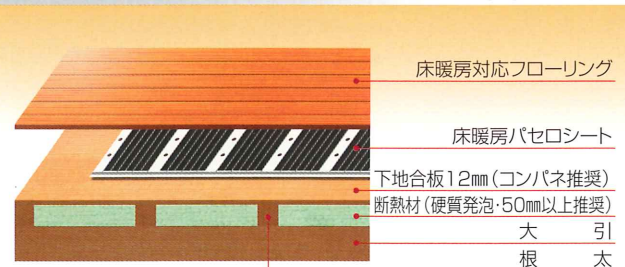
これらの注意を良く守り計画的で安全な施工を行いましょう

■施工概略図



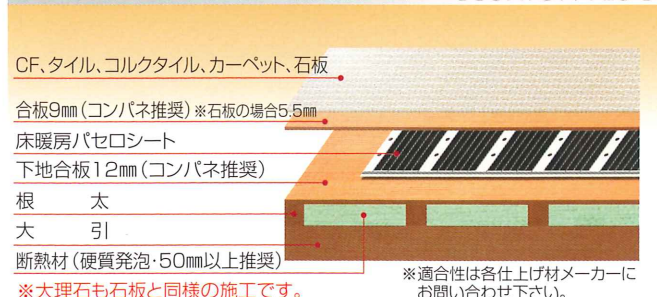
■仕上材別施工図

●フローリング施工図 WOOD FLOOR

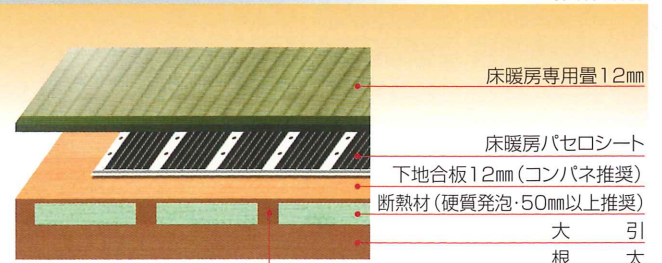


※無垢材は必ず床暖房対応品をご使用下さい。

●CF、タイル、コルクタイル、石板等施工図 CUSHION FLOOR



●畳施工図 TATAMI



施工手順

1 一次配線とコントローラボックスの取付け



コントローラ取付け位置(目安:床から1200mm程度)を決め、壁にJISスイッチボックス2個用(現場調達)を取付け、一次側電源コードを引き込みます。

2 下地の確認(下地合板はビス止め)



下地は必ず乾燥材を使用し、釘の頭や針金、段差や節などを平滑に処理します。その後、掃除機などでゴミ、ホコリなどをきれいに掃除します。

3 仕上材(フローリング)の墨出し



仕上材(フローリング)の張り出し位置と、仕上材の幅で割り付けの墨出しを行います。

! 注意:仕上材には遮音フロアを使用しないで下さい。

4 敷設位置決めと移動



敷設場所のPASELLOシート枚数と長さ四辺の墨出しを行い、敷設位置にPASELLOシートを置きます。その際、一人で引きずらずに、必ず2人でPASELLOシートの両端を持って運びます。

5 PASELLOシートの仮置き



PASELLOシートの両端導体(銀色)部分と地墨が重ならないようにし、根太組工法では、根太の真上にPASELLOシートの白色部分(穴あき部分)の中心がくるように敷設し位置を確定させます。

6 PASELLOシートの仮止め



PASELLOシートのリード線のついていない側半分を養生テープで数ヶ所止めます。

PASELLOシートはたわみ、ゆがみなく下地に固定する

床下がない場合床上配線⑦へ →
床下がある場合床下配線⑦へ ↓

床下配線の場合

7 開口部分の位置決め



リード線(白・黒)と樹脂成型端子部分が床下に吸収できるようにするため、下地合板に端子位置の印をつけます。

8 開口作業の前に



開口作業ができるように、PASELLOシートを半分位めくり返します。

9 開口作業



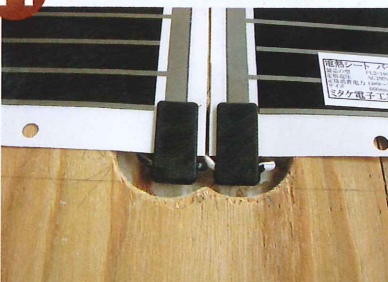
⑦の印部分をドリルで50φ(または30φ2連)の穴をあけ、穴の内側を面とります。

10 掃除



⑨の開口作業で出たゴミ、ホコリなどを掃除機で吸い取ります。(PASELLOシート下面にエアを吹きつけ、ホコリなどを飛ばします。)

11 リード線(白・黒)の床下投下



⑨であけた穴にPASELLOシートのリード線(白・黒)を投下します。(開口部分に凸部があれば調整します。)

12 PASELLOシートの固定



PASELLOシートはたわみ、ゆがみなく下地に固定する

正確な位置にPASELLOシートを置き、養生テープで数ヶ所固定します。

結線方法⑬へ

床上配線の場合

7 配線経路の位置決め・墨出し



樹脂成型端子部分が収まるように、配線経路50ミリとコントローラの追線経路20ミリの位置を決め、下地合板に墨出しを行います。

10 掃除



⑨の配線経路作業で出たゴミ、木屑などを掃除機で吸い取ります。(パセロシート下面にエアを吹きつけ、木屑などを飛ばします。)

8 配線経路作業の前に



配線経路作業ができるように、パセロシートを半分位めくり返します。

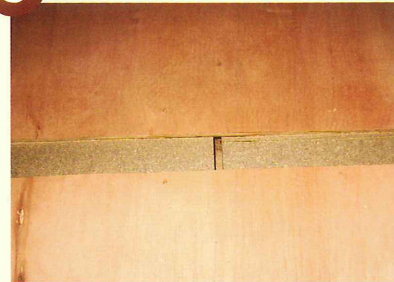
11 パセロシートの固定



パセロシートは
たわみ、ゆがみなく
下地に固定する

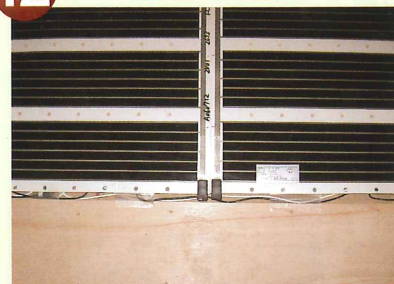
正確な位置にパセロシートを置き、養生テープで数ヶ所固定します。

9 配線経路作業



⑦の印部分の下地合板を丸ノコなどで切り取ります。

12 リード線・追線の配線

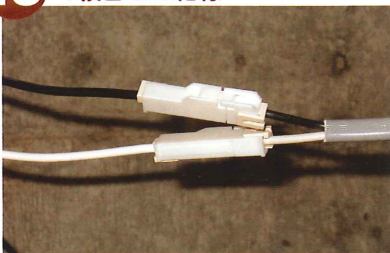


⑬～⑮の手順で結線後、下地合板の溝にリード線(白・黒)とコントローラ側追線を写真のように収めます。

↓ 結線方法 ⑬へ

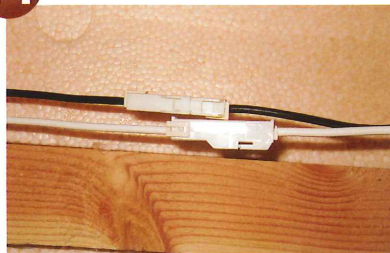
結線方法 一床上・床下配線共通一

13 コントローラ側追線と1枚目との結線



先ず最初にコントローラ側追線(付属品)と、コントローラに一番近い1枚目のパセロシートの結線を同色どうし(白と白・黒と黒)で行います。

14 2枚目以降との結線



1枚目のパセロシートの余った短いリード線と、2枚目の長いリード線を同色どうしでつなぎます。(以降同様)

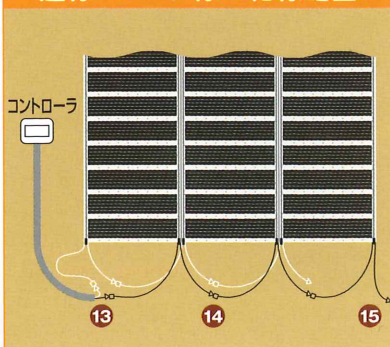
15 絶縁処理



重要 床下で配線を根太に固定する際は、配線をキズつけず、圧力もかけぬよう注意する。

最後のパセロシートのつながっていないコネクタを絶縁テープで絶縁処理します。(最後のパセロシートのリード線は白・黒一本ずつ必ず余ります。)
※床下では結線部にジョイントボックスを使用して下さい。

追線・リード線の結線略図



重要 電気試験

パセロシート敷設後と仕上材敷設後に必ず行って下さい。



○絶縁抵抗計(DC500V)で漏電チェック
※50MΩ以上で合格としますが、下地合板が湿っている場合や雨天時には、50MΩ以下になる場合がありますので、湿気を考慮の上測定して下さい。



○テスターで合成抵抗値を確認
合成抵抗値=電圧(100V)÷シート合計アンペア数
(突入電流:100V=1.79A/m)
※合成抵抗値はPTC特性により、外気温で左右されます。20℃環境で突入電流数値に対して±20%程度が許容範囲内です。これより夏場はプラス、冬場はマイナスの数値になりますので外気温を考慮して、測定して下さい。

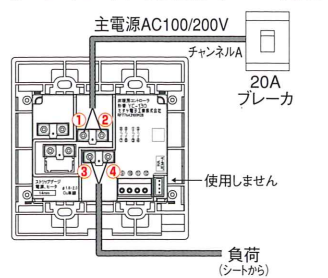
コントローラ・リレーボックスの取付け

単位:mm

コントローラ品番:YC-130、230(100V、200V兼用タイプ)

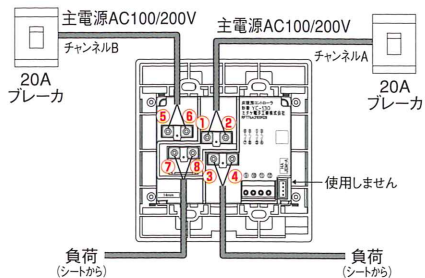
■電気系統図

●1チャンネル用結線(15A以内)



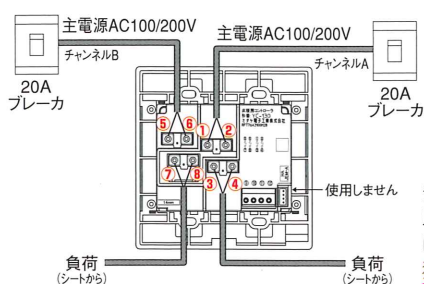
負荷が15A以内の場合、チャンネルA(①②③④)のみ使用します。

●1チャンネル用結線(15A以内×2)



チャンネルA(①②③④)の負荷(③④)に15A以内を、チャンネルB(⑤⑥⑦⑧)の負荷(⑦⑧)に15A以内を接続します。(チャンネルA、Bは同時運転です。)

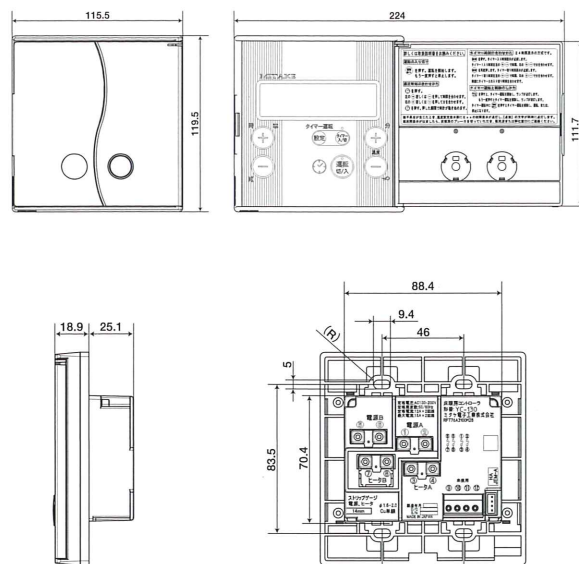
●2チャンネル用結線(15A以内×2)



チャンネルA(①②③④)の負荷(③④)に15A以内を、チャンネルB(⑤⑥⑦⑧)の負荷(⑦⑧)に15A以内を接続します。(チャンネルA、Bは独立運転です。)

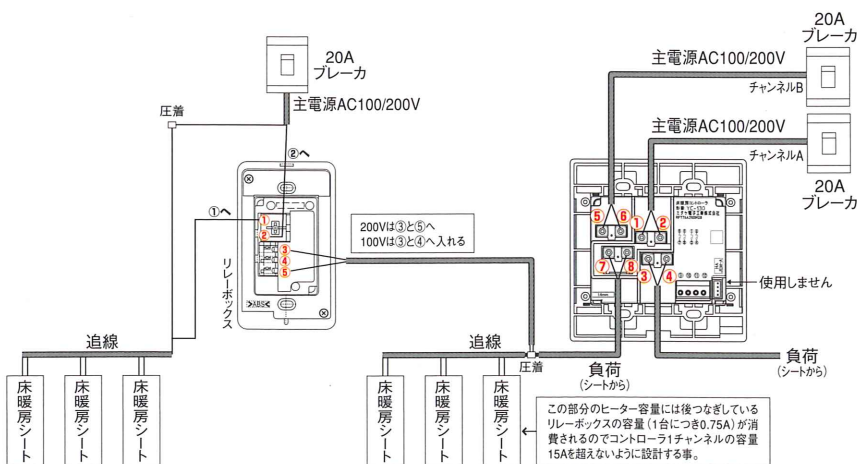
■外形寸法図

(1チャンネル用・2チャンネル用ともに同じ外形寸法です。)

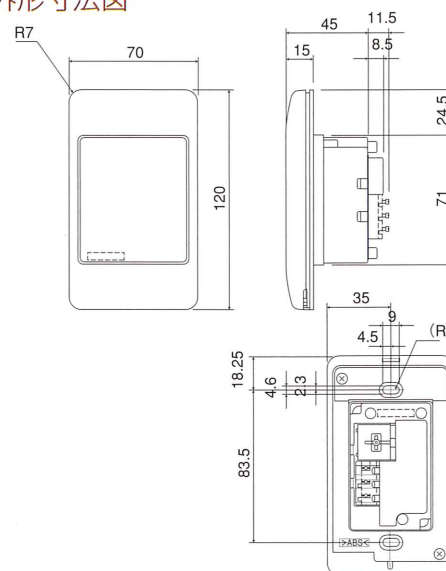


リレーボックス品番:RFT-R(100V、200V兼用タイプ)

■リレーボックス結線図

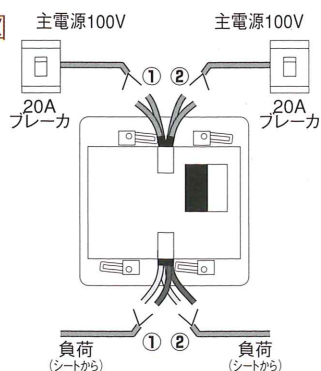


■外形寸法図

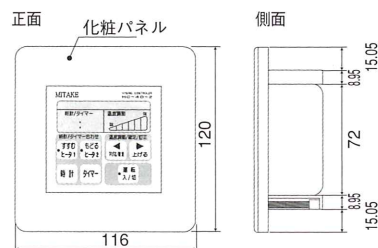


コントローラ品番:HC-40-2(100V専用タイプ)

■電気系統図



■外形寸法図



※ コントローラボックスは付属しておりません。コントローラはJISスイッチボックス2個用深型(リレーボックスは1個用深型)を現場調達し、ご使用願います。
 ※ YC-130、230コントローラに追線を結線する際は、追線に棒端子を圧着して下さい。また、HC-40-2コントローラの場合は、付属のオスメス端子を追線に圧着して結線して下さい。